

受入人数	【1年次】2名		研修手当				休暇			当直 /月	宿舎	社会保険・労働保険等		
	研修手当		賞与	時間 外	休日	勤務時間		有給 1年次	夏季	年末 年始				
	基本手当 1年次	2年次				1年次	2年次							
常勤	400,000		無		有	8:30~17:30	10	無	有	約4回	無	社会保険、厚生年金、雇用保険、災害加入		

○研修診療科(必修科目)について

科目	研修内容(手技・症例数・指導医数等)	必修科目的研修ができない場合、選択可能な診療科 救急科研修に替えて麻酔科研修可能(4週まで)
内科	一般的な疾患を診療する機会が多く、プライマリーケアの研修として通じております。肺炎、脳梗塞、胃腸炎、消化性潰瘍、胆石症、尿管結石、尿路感染症、胃腸炎、高血圧緊急症、バセドウ病、副腎不全等、幅広い疾患を経験できます。糖尿病専門医5名、呼吸器専門医1名、循環器専門医1名、肝臓専門医、腎臓専門医が常勤でおり指導にあたります。脳血管障害は常勤脳外科医と連携して診療しております。診療に慣れてくると、指導医の下で実際に診断・治療計画を立てられます。カクランズは毎朝開催し、主に新人院患者を検討します。また内視鏡、心カテーテルも、希望があれば経験できます。慶應義塾大学内科学教室から専修医の派遣を受け入れております。	
救急科	救急車は年間約4,000台、救急患者は約8,000人です。内科系救急、外科系(整形外科含む)の救急を経験できます。救急患者の初期対応について、平日日中、月曜日から木曜日は救急専門医、金曜日は専門医、外科医、整形外科医、泌尿器科専門医が初期対応、実践、講義を含めて指導します。救急搬送された患者の重症度、診断を適切に判断できるように指導しています。研修初期では指導医の救急診療の見学から始まりますが、研修中期以降は指導医の指導の下で、初期対応ができるようになります。専門医の手術が20orr程度だったり、超高齢者で腹部所見が見事に大腸穿孔による反発性腹膜炎で緊急手術が必要な症例など多くの症例を経験することができます。一般病院でなければ経験できない二次救急を多数経験していただけます。循環器疾患や脳血管障害や頭部外傷を含めた脳外科疾患は、常勤医師が24時間対応します。	
外科	当院は日々頻繁に脛筋ヘルニア手術を積極的に取り組んでいます。脛筋ヘルニア手術は年間100例以上あるため、研修医は助手や医師として経験することができます。また、腹腔鏡下胆囊摘出術、腹腔鏡下虫垂切除術、等鏡視下手術では、内視鏡操作を担当する助手として手術に参加します。虫垂炎の手術も多數経験できます。脛筋ヘルニアや虫垂炎に対する手術として経験可能です。(某研修医の手術体験数: 脛筋ヘルニア 40件(術者15名)、虫垂炎 10件)。研修医にとって適度な難易度の手術が豊富であり、外科系の医師を目指す研修医にとって魅力的な研修ができるようにサポートします。毎日、カクランズ回診を通じて、患者の状態を観察し、情報共有の意識を実践します。また、院内、院外を通して、多職種連携の重要性を理解できようとして教育します。病棟業務ではCV挿入、胸腔ドレーン挿入、腹水穿刺などを実践を通じて手技を取得ができます。慶應義塾大学医学部内科学教室から毎年外科専修医の派遣を受け入れられています。	○研修アピール 当院は、西武池袋線江古田駅より徒歩7分、東長崎駅より徒歩9分、地下鉄都営大江戸線、新江古田駅より徒歩10分です。診療録、画像検査など電子化されています。研修医室には専用の机があります。地域の急性期病院として、一般的な疾患を診療する機会が多(プライマリーケアを学ぶ)に通じております。特徴として①多くの手技を学得可能、②学会、論文報告が可能です。 ①某研修医の1年間の手技経験枚数: 中心静脈挿入 50件、気管内挿管 46件、イレウスチューブ挿入 7件、胸腔穿刺 7件等。 ②初期研修医の学会報告数 24(1.2/1研修医)、論文報告数12(0.6/1研修医) 主な論文報告 1) Tetsuhiro Yoshino: A patient with Graves' disease who survived despite developing thyroid storm and lactic acidosis. Uppsala Journal of Medical Sciences. 2010; 115: 282-286 2) 西 恒代、他 牛乳多飲が原因と考えられた腸管収縮様気脹症の1症例 日本内科学会雑誌99: 3077-3078, 2010 3) Taro Umezawa: A patient who experienced thyroid storm complicated by rhabdomyolysis, deep vein thrombosis, and a silent pulmonary embolism. BMC Research Notes.2013, 6:198 4) 丹生谷達太郎、他: 腸脹痛を呈した脾弯曲部結合膜脂肪腫に対して腹腔鏡手術を施行した一例 Progress of Digestive Endoscopy 95(1): 121-123, 2019 最近の学会報告: 1) 水谷真志 腹部外傷にて遲発性に発症した十二指腸穿孔の一例 第40回日本外科系連合学会 2015.6 2) 菊池紳斗 α Streptococcus 感染性心内膜炎と合併した大腸がんの一例 第22回練馬医学会 2015.6 3) 梅津太郎、他 甲状腺クリーゼに横紋筋筋膜解離と下肢深部静脈血栓症を合併した1例 第12回内分泌学会関東甲信越支部学術集会 2013.3 4) 加藤 実、他 診断に難渋した劇症型アメバ腸炎の一例 第595回日本内科学会関東地方会 2013.3 5) 常松大輔、他 EBvirus感染に関連した急性胆囊炎の一例 第346回日本消化器病学会関東地方会 2017.9 6) 内田真由佳、他 転移性肝癌と鑑別が困難であった肝硬変型血管腫の一例 第81回日本臨床外科学会総会 2019.11
小児科	2年目に慶應義塾大学病院で研修する。	
産婦人科	当科は産婦人科の全領域をほぼまなく網羅しており、産婦人科臨床の知識や技能のほぼ全てを、バランスよく得ることができます。すなわち、非常勤医を含む産婦人科の全領域の専門医が勤務しており、各専門医からそれぞれの領域に詳しく述べる事ができます。婦人科腫瘍に関しては、子宮筋腫や卵巣腫瘍等の良性腫瘍では開腹手術が主手術として経験可能です。(某研修医の手術体験数: 子宮全摘出含めた腹腔鏡下の手術手技も、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医の手術研修可能です)。子宮全摘出、子宮切除術、卵巣摘出等の悪性腫瘍に関しては、これまでの手術から内視鏡手術へと治療法が大きく変化してきました。即ち、細胞生物学的検査によって、子宮全摘出術と子宮全摘出術併合の手術が主流となりました。また、周産期管理においては、年間約200例の正常分娩や異常分娩(難産、帝王切開等)から自ら経験できます。特に胎児評価法に関しては2年次に初めてとする胎児評価法に基づいて専門医により指導を受けることができます。生産医療では体外受精、胚移植(IVF/ET)ここで当院では行はれておりませんが、それに至るまでの基本的な検査、診断、治療はすべて行っており、常勤の専門医により生殖医学の基礎と臨床に関して詳しく研修可能です。このように産婦人科のほぼ全領域を広く広く研修することができます。	○研修医からのメッセージ 研修医A(基幹型) (現 国立国際医療研究センター病院麻酔科):多くの熱心な指導医に恵まれて知識技術にも得られ、質の高い研修が行えます。自分の勉強に充てる時間も確保でき、同期との差をつけることのできる病院で自信を持って研修します。 研修医B(基幹型) (現 慶應義塾大学産婦人科):自身で患者さんを診て治療するといった研修医主体の医療を行なうことができます、数多くの手技をこなすことができ、外科では合計10件以上のオペレーターを経験しました。また、学会発表もすることが出来ます。都内でこれ程多くのことを研修医にやらせて頂ける病院は少ないと思います。 研修医C(基幹型) (現 慶應義塾大学放射線科):上級医との垣根が低いため、相談しやすい環境です。また希望すれば多くの手技や論文発表など、色々な経験を積むことができます。 研修医D(基幹型) (現 福島県立医療精神科):内科、外科とともに毎日カクランズがあり熱心な指導を受けることができます。他病院の研修医に比べ手技をやる機会は多く手術も16件させていただきました。マナー、外科含め外科系にすむ人にはおすすめです。病院の雰囲気も大変よく毎年社員旅行で海外旅行があります。どんなアットホームなところも大変魅力です。この病院にきて後悔したことなど一度もありません。是非一度見学に来てください。 研修医E(慶應・協力型病院循環) (現 練馬総合病院内科):やりたいことをやらせる、中規模病院の長所が生きている病院です。特に手技の習得にはもっていって、休日も取れます。この病院を選んでよかったです。 研修医F(慶應B(現慶應大学整形外科)):都内の病院でこれだけ数多くの手技を経験できる病院は少ないと思います。上級医も熱心で、様々なチャンスを与えてくれるので、手を動かして学びたい人には特にお勧めです。
精神科	2年目に慶應義塾大学病院で研修する。	
一般外来	内科、外科研修中に初診外来を上級医師の指導下に担当します。初診患者あるいは紹介状を有していても臨床問題や診断が特定されない初診患者を担当し、問診、身体所見、採血、生検検査、画像検査などから、診断プロセスを習得し、適切な診断、治療計画が立てられるように研修します。特に、緊急性の高い疾患の鑑別、応急処置、院内での医療連携、患者・家族への説明、カルテ記載の重要性、入院判断などが適切に行えるように指導します。	

以下、慶應義塾大学病院から研修医への注意事項

- ・外科研修はその他の外科系の診療科への振り替えは認めません。
- ・必修科目がある病院では、必ず必修科目を研修してください。振り替えは認めません。

研修実施責任者 栗原 直人

※問い合わせ先

担当部署・担当者名： 栗原 直人

住所： 練馬区旭丘1-24-1

TEL： 03-5988-2200

E-mail nkurihara@nerima-hosp.or.jp